

新宿の文化芸術の持続的な発展をめざして

新宿区は、古くから今日に至るまで、多くの人たちが「住み」・「働き」・「集う」場として、多様な文化・歴史的蓄積があり、多彩な文化を育むと同時に、新たな文化を生み出してきたまちです。

新宿区ならではのこうした文化的な多様性や広がりを活かした文化芸術振興を進めていくに際して、スポーツの祭典であり文化の祭典でもある東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、大変な好機となります。

平成30年9月からの2か年を任期とする第5期新宿区文化芸術振興会議では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会やそれ以降のレガシーまでを見据えた新宿区の文化芸術の振興について意見交換を行い、調査審議事項を「区内文化施設の情報発信基盤の整備について」及び「区内文化施設間の企画連携の促進について」と決定し、その実現に向けた提言を行うべく審議を進めてまいりました。

しかし、令和元年末ごろから新型コロナウイルス感染症の感染の拡大が顕著となり、これに伴い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が延期となりました。また、区内の文化芸術施設も休業要請等の対象となり、収入を絶たれる等の影響を受けるとともに、アーティストたちが活動の場を失いました。

こうした状況を踏まえ、新宿区文化芸術振興会議では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下で文化芸術を守ることにについて議論し、先の二つの調査審議事項に関する提言に加えて、緊急の提言として取りまとめました。

この報告書が、新型コロナウイルス感染症や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期を乗り越えて、区民・文化芸術団体・学校・企業・区など、多彩な文化芸術の担い手である「私たち区民」の力で、新宿ならではの魅力ある文化芸術の持続的な発展の一助となることを期待します。